

# 事務局だより 1 号

東北大学教育学部同窓会  
東北支部・旧仙台支部

## 仙台支部から東北支部へ

### 1 はじめに

昨年 11 月の総会において、会員の枠を原則仙台圏に居住する教育学部同窓生及び本会の趣旨に賛同する者とする会則を改正し、「原則として東北地区（青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島・新潟各県）に居住する教育学部同窓生、学生、院生及び本会の趣旨に賛同する者」とする会則改正が承認され平成 29 年 4 月 1 日施行となります。

### 2 会則改正の趣旨

もともと仙台支部は、故塚本哲人元学部長さんの同窓会全国展開の想いを受けて藤井黎先生が手始めに仙台地区でということで昭和 55 年にスタートしたものでした（設立の詳しい経緯は後述）。その後、平成元年に教育学部関東地区同窓会が設立されて以来今日まで他の支部設立の動きは全くありませんでした。そこで私どもは仙台支部創立 40 周年を前に、当時の想いを受けて、まず会員の範囲の拡大をしようという発想でこの会則改正の実施に踏み出しました。これまでも趣旨に賛同する者として宮城を除く東北地区から 18 人の会員登録がありますが、会員になり易い環境の整備を図り、もっと多くの会員の参加を得て、仙台支部設立時

における想いの実現の一步を踏み出す事にしたのです。

### 3 これまでとこれからの活動概要について

設立から 37 年間年 3 回の役員会と 1 回の顧問会、必要に応じた各委員会の会議、会報発行、会計監査、そして総会・講演会・懇親会等を中心に会の運営を進めてきました。また、独自の事業としては教育学部創立 60 周年の平成 21 年に学生支援事業実施として本部同窓会に寄金し、博士論文執筆援助事業を立ち上げていただきました。援助を受けた学生さんには、その概要を会報に紙上報告して頂いております。

これからも今まで同様の活動を進めていきたいと考えておりますが、如何せん若い世代の加入がなく、会員の高齢化も進み、資金的に先細りの状況になりつつあります。また、平成 24 年から会報に事業報告と会計決算報告、講演内容等を載せ、総会に出席できない会員の方々にも支部の活動状況が分かるようにしたり、会報を大学の入学式の折に配布していただいたり、出来るだけ透明性を持たせ、多くの方々に入会するきっかけ等を作るよう工夫をしております。また、若者の入会を促すためにも 27 年から学生・院生を準会員として、総会・講演会・

懇親会への参加を促しております。昨年、一昨年と本部事務局(神谷先生)のご努力により 6~8 名の準会員の方々が参加しました。

先述の学生支援事業の継続については利用者が出れば基金は減少していきます。更なる寄金も必要になってまいります。また、**本部同窓会が企画している学生支援事業等、例えば卒業研究学会発表援助事業や学部学生学会参加費援助事業への支援なども考えたいところ**です。そうした場合、運営基金への更なる積み立てが必要になってまいります。全会員の会費納入の促進はもとより会員増の願いは避けられません。益々の改革が必要な時と自覚しております。

#### 4 東北支部会員募集の進め方

支部の名称の変更ですから、今までの仙台支部の役員並びに会員は自動的に東北支部の会員となって頂くこととしております。よろしく申し上げます。

まずは**宮城県内**の方々にこの情報をお知らせすることから始めていきたいと考えております。会員の皆様には**お知り合いの同期の方々等**で加入にご興味を持っていらっしゃる方のご紹介をお願いしたいと思います。事務局より会への加入のお願いとこの事務局だより、昨年の会報か本年発行予定の会報等をお送りしたいと考えております。

次に**県外の方々**への加入依頼の件です。同期とは限らず、皆様方の交流のある方をご紹介頂きたいと考えております。上記同様の事務処理をしたいと考えております。また、同期会や同窓生の親しい方々との会合を持たれておる方は是非そ

の折今回の改正の趣旨をお話しいただき勧誘にお勤めいただきたいと願っております。

これらを進めていく上で重要なことが二つあります。一つ目は年度理事の方々が中心となって頂きたいということです。最近役員会への年度理事の出席が激減しております。比較的若い方々の欠席が多い傾向にあります。中には自分が年度理事だということが分かっていなかった方もいるという事です。再度各年度で選出理事の確認をお願いいたします。

二つ目はご紹介いただける方々の現職・元職の職種です。支部設立の経緯(後述)から教員でなければならないと思っている方が多くいらっしゃいます。本会の加入条件は**東北地区に居住する教育学部卒業生だ**ということを確認させていただきま。先日、3月に大学院を修了し宮城県内の高校の教員になる方とお話したのですが、その方も総会・懇親会に参加してみて、会員は教員でなければいけないものと思っていたそうです。いろいろな職種の方々が、少い(わかい)者も壮年の者も老年の者も、世代を超え、利害を超えて人間同士の交わりを持つのが同窓会である旨の話をし、年度理事をお願いしたところ。ご理解の上入会対象の方々のご紹介をよろしく申し上げます。

#### 5 おわりに (支部設立の経緯概要)

支部設立は昭和 54 年、教育学部創立 30 周年記念式典において、仙台市長来賓祝辞を出席していた仙台市教育長の藤井黎氏(同年 1 月 1 日に拝命)が急遽代理で述べられた事が縁で、当時の学部長塚本哲人氏が後日同窓会仙台支部設立の話

を持ち込まれたことに端を発しています。話を聞いた藤井氏は第一回生で市内の小学校長三浦氏に設立の話をかけ、その後塚本氏が直接勤務校に足を運ばれ依頼、全国の支部づくりのスタートとして仙台支部結成が動き出したということです。三浦氏は早速同期生の岩渕、志村、富塚、丸谷、川井、小野各氏に呼びかけ準備委員会を立ち上げ準備に取り掛かったのが55年7月末だといいます。まず名簿作成、規約作成、会長・役員選出、設立総会会場選定、経費の捻出等々山ほどある仕事を市内にいる現場の先生等同窓生の協力の元、土日返上で精力的にこなしています。特に名簿作りにご苦労されたと後日述懐しています。また、会則の作成に当たっては単なる懇親会に止めるのではなく一つの研修の場とした性格づくりをされました。まずは会費を徴収せず組織固めを中心に据えたということです。また、学部の先生方に薄謝で講演をお願いしております。これは現在も引き継がれております(感謝)。55年11月170名を超える会員の参加で総会が開催され初代支部長に藤井氏が選出されます。準備経費は委員の自腹で賄われたといいます。仙台支部設立経緯概要は会報18号から、設立経緯詳細は会報創刊号、第2号、第14号から転載しております。

## 6 その他 連絡の要領、連絡先

ご紹介頂ける会員勧誘対象の方への連絡は早ければ早いだけよろしいのですが8月の支部役員会の折に対象者名をメモ等でお知らせいただければと考えております。

なお、本部同窓会のHPをご覧ください

ご入会・ご推薦のご連絡を頂ける方は、支部事務局長軍司啓宛か支部長渡邊宣隆宛てに支部参加希望者名あるいは参加勧誘対象者名を、入学年度・ご住所・郵便番号、できればお電話番号等を付記の上、下記メールアドレス宛にメールにてご連絡を頂ければ幸いです。よろしく願いいたします。なお、ご紹介の際は必ずご自分のお名前もお知らせください。メールアドレスは下記の通りとなります。

事務局長 軍司 啓

PC : [hy0323seikacn@hb.tp1.jp](mailto:hy0323seikacn@hb.tp1.jp)

支部長 渡邊 宣隆

PC: [n.watanabecoco@jcom.home.ne.jp](mailto:n.watanabecoco@jcom.home.ne.jp)

携帯 : [nb-watanabecoco@ezweb.ne.jp](mailto:nb-watanabecoco@ezweb.ne.jp)